

全国棚田(千枚田)連絡協議会

棚

田

ライステラス

第25号 2002.3.5
(季刊・年4回発行)

発行/全国棚田(千枚田)連絡協議会

編集/ふるきやらネットワーク

〒169-0073 東京都新宿区百人町1-23-29-202

TEL 03-5389-9937/FAX 03-5389-0078

<http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/index.htm>



昭和30年代の島根県柿木村大井谷の棚田全景

「日本の村に
思いやりの心を」

明治大学客員教授

中村靖彦

北海道で、一人の酪農家に会った。BSEいわゆる狂牛病騒ぎに悩まされていた。もし自分の牛に、一頭でも狂牛病が発生したらこの村には住むことが出来ない、とまで思い詰めている。同居している八十頭ほどの牛も殺処分されてしまうから、経営的に大打撃であることは間違いない。しかし、心配はそれだけではない。周囲の農家への迷惑を考えるといたたまれない、と言うのだ。地域の牛乳のイメージが落ちる、野菜だって売れなくなる恐れがあるからだ。そんな雰囲気、地域社会全体を包み込んでいらいしい。

こんな村八分的な目が、日本の農村の中心といってもよい地域にあることは悲しい。狂牛病発生は、一農家の責任ではない。犠牲者とも言える農家を、白い目ではなく思いやりの目で見あげることが出来ないのか。経済的にも心理的にも励ます心は持てないものか。日本の村は、昔からこんな風だったのか。

私がこんな気持ちでいた時に、中谷健太郎さんが書いた「湯布院発につぼん村へ」という本が届いた。湯布院映画祭などの企画者中谷さんは、そのまえがきの詩で、なんと多くのものが村から消えてしまったかを記述している。裏山のクリ、ハヤがはねる夕べの小川、笛と太鼓と行列の一隊などなど。そして村のなかの人と人のつながりも。その背景にあったのは、効率化至上主義の日本だった。

中谷さんは、村が失った多くの「もの・こと」を蘇らせる仕事をしたいと言う。その気持ちが行き渡れば、日本の村に、思いやりの心が蘇るだろう。



全国で棚田調査が進行中!

棚田の謎がいま、次々と明らかに!

1995年の全国棚田(千枚田)連絡協議会発足以来、棚田への関心が高まるとともに、棚田の調査も少しずつ行われはじめた。とくにここ2、3年、全国各地で地元の棚田調査が行われ、主に棚田の土地利用など現況調査や石垣調査、歴史・民俗といった文化的側面などの調査が進められている。また、都道府県単位で、棚田の規模や状況等を把握する実態調査を行っているところもあり、各地で棚田地域の基礎的データが整えられつつあるのが現状だ。

岐阜県恵那市

恵那市教育委員会 市史編纂室 安藤 利道

恵那棚田ネットワークの調査と学習

●はじめに

1999年恵那市教育委員会は恵那市中野方町坂折地区の棚田について、伝統的景観の棚田を民俗的文化財と位置付け、同地区のほ場整備に先立ち、詳細な棚田調査をまとめた。これは平成9、10年の2ケ年にわたり京都大学金田章裕教授指導の京都大メンバーによってまとめられたもので、棚田の水利、石垣、田の俗称開発、農家構成、耕作、品種・作柄、慣習・年中行事などの各項目について、くわしくまとめたものである。

驚見学、驚見章助、柘植光一、飯田和昭、柘植順、鈴村直、小田文夫、柘植すゝ子、柘植善次

●調査計画(2002年度分)

調査項目 / 調査目的 / 調査時期
山頂部にある湿地帯調査 / 棚田水源地 / 5月
灌漑用水の水温調査 / 棚田水温の実態究明 / 7月
石垣と清水口調査 / 石垣積み形式の究明 / 11月
米と麦の栽培調査 / 米・麦二毛作の様子について / 1月

●調査項目別の概要

1, 山頂部にある湿地帯調査

5月29日、10名の会員が同地区の小池三千夫氏の案内で、権現山(866・8m)・見行山(904・9m)の頂上部にある湿地帯「いけんたわ」と「山名」の調査を行った。急峻な森林と雑木林の山路を潜り抜けたところにある平坦地は、背の低い雑木とミズゴケに覆われた「ぐてし」になり、南北約320m、東西150mほどの広がりがあった。湿地帯は沼ではない。しかし、この湿地が雨水を含み貯水池となり、坂折地区へ流れあるいは伏流水となって田を潤していることが確認できた。

2, 灌漑用水の水温調査

坂折棚田には、特別の用水路の沼地もない。岩折川と岩竹川や伏流水の湧きで

た清水口や手畔の水が、この地区の田を潤している。
7月19日、14名の会員が6班に分かれて、地区内80余箇所の水温調査を行った。山裾部の川や湧き水は13・2度から19度内外であるが、岩竹川・坂折川の上流部は14・5度となり、最下流部では22・2度に上昇していた。

なお8月2日、市内を流れる川の水温を測定したが、平均約25度ほどで坂折棚田地区の水温の低さが明らかになった。

3, 石垣と清水口(暗渠)

坂折棚田468枚(調査水田数)はすべて野石による石積み畦畔で、平均の高さが2・3mあって、ほとんどが江戸時代に築かれたものである。
11月20日、会員14名により石積みと清水口の調査を行った。明治以降に積まれた割石による「あじろ積み」が一部に見られたが、野石による「横積み・斜め積み・谷落し・乱雑な積み」などの形式があり、自然地形に沿ったもの、岩石を利用したもの、2段積みの畦畔があり、所有者による石積みの差が見られた。

4, 米と麦の栽培方法の調査

坂折棚田は中心部は水田で、その周辺部に畑があり、これを取り巻く山地は草刈場となっていた。水田の多くは米と麦の二毛作が行われていた。
1月22日は坂折公民館で、地元7名を中心として、会員14名が加わって話し合いによる聞き取り調査を行った。

麦の刈り取りから大はぎ、田つくり、代かき、田植え、田の草とり、畔草刈り、稲刈り、運搬、大はぎ、麦の田堀り、麦

●テーマ:「坂折地区の人々とともに調べる棚田の調査」
●坂折地区の調査協力者名:小池三千夫

この調査をうけて、より具体的に、しかも棚田を広く理解して、その保全・整備の意義をまちづくり活動として捉え進めることをねらったのが、今回の調査である。

調査は恵那市棚田ネットワークの学習部委員長安藤利道、学習部副委員長長谷川多平が中心になり、計画を立てて、地元の坂折地区の棚田農家に話しかけて、それぞれの体験をもとに調べたり、語ったりの協力をいただくことを基本に進めることになった。

では現在、全国各地でどのような棚田調査が進んでいるのだろうか。各地域からレポートしていただいた。

まきなどに話は及び、坂折地区の米・麦栽培の苦勞と工夫が分り、農繁期には1日4〜5食で4杯目は遠慮しながら茶碗を出した話もあり、大笑いもあった。

11月27日には、隣県である愛知県鳳来町の四谷棚田の見学学習を行い、会員60名が参加した。輪島棚田サミットには、35名参加で学習をした。

島根県 柿木村

柿木村産業課 榎木 昭典

大井谷棚田における歴史民俗調査

●調査名・大井谷棚田歴史民俗調査

●調査目的・ねらい・大井谷の歴史・民俗等を調査することにより

①大井谷の住民にとって大井谷棚田の歴史の再認識ができる。

②都市住民に対して大井谷棚田の歴史的価値のPRにより、多くの交流人口を創出する。

③棚田の歴史を通して棚田がもつ公益的な機能をPRする。

④地元の小・中学校での総合的な学習での活用。

●調査メンバー・執筆者4名

勝部真人(広島大学文学部助教授)／佐々木卓也(棚田ネットワーク中国副代表)

／三浦一美(柿木村文化財審議会会長)／永安恵治(柿木村文化財審議会委員)

●調査協力者・柿木村文化財審議会委員／大井谷地区住民

●事務局・大庭洋子(村教育委員会次長)●実施期間・平成11年4月〜14年3月

●予算・助成・1／2県費(住んで幸せしまねづくり事業)、1／2村費

平成11年度 187万5千円

平成12年度 209万6千円

平成13年度 650万円

合計 1047万1千円

●内容・棚田一枚毎のハード調査・カルテ作成／土地台帳、水帳等を分析しての土地利用の変遷／大井谷地区の高齢者を中心に聞き取りによる民俗調査／大井谷地区の棚田石垣の歴史、特徴など

【江戸前期における新田開発のようす】 単位/反(10a)

	古田		年々新田		未以来新田	
	寛永14	承応3	寛文6~8 (1666~68)	天和2~3 (1682~83)	元禄元	享保6
累計	76.9	79.2	87.9	104.7	122.9	126.5
麦田	12.5			0		
上田	14.3					
中田	34.4	1			1.8	
下田	15.7	1.2	8.7	16.8	18.2	1.4
下々田						0.3
合計	76.9	2.3	8.7	16.9	18.2	3.2

【一筆平均面積】

麦田	0.69					
上田	0.68			0.03		
中田	0.72	0.35			0.15	
下田	0.60	0.21	0.28	0.38	0.55	0.23
下々田						0.16
平均	0.68	0.25	0.28	0.38	0.55	0.18

広島大学文学部助教授 勝部真人作成

福岡県 星野村

星野村教育委員会 次長 栗秋 恵二

3年間全村における棚田調査実施

平成13年度から3年間文化庁の文化財国庫補助事業、民俗文化財「棚田調査」を開始いたしました。

調査目的は、中世以降の永い開田歴史の中で農民の弛まない努力と洗練された石積み技術により構築された棚田は、全村に渡って広範に分布しており、今も模様を変えることなく守り継がれています。城壁を髣髴とさせるような棚田の石積みは星野村の美しい山里景観を醸し出しており、水田としての機能を維持しています。しかしながら近年、離農、高齢化によ

る荒廃農地の増加など棚田の衰滅が懸念されています。棚田が持つ農産物生産機能、治水機能さらに、自然環境保全機能等の貴重な歴史的な文化資源が失われつつあり、早急に棚田調査を実施し、民俗文化遺産として後世に伝え残して行かねばなりません。また、残された棚田の保全・保護を住民の理解を得ながら今後も続けたいと考えています。今回の棚田調査が、民俗文化としての棚田の果たしてきた役割を明らかに出来るものと大きな期待を持っています。

I 具体的な調査項目

〔1〕棚田概況調査 ①地勢・地形調査 ②棚田台帳作成 ③水利調査 ④石垣調査

〔2〕歴史調査 ①開発伝承 ②文献調査

〔3〕民俗調査 ①生活風俗 ②生産技術と習俗 ③棚田造成技術 ④村の組織と慣行 ⑤信仰習俗 ⑥年中行事

II 担当していただく調査員

所属	氏名	調査担当
東京大学	春山成子助教授	1
國學院大学	小川直之教授	3
九州大学	服部英雄教授	2
九州芸術工科大学	加藤仁美教授	1
別府大学	段上達雄教授	3
別府大学	飯沼賢司教授	2
石井事務所	石井里津子	3
棚田学会	ポランティア	1
星野村	星野村文化財保護委員他	

●結果・報告書作成
●題名・「大井谷の棚田」ページ数・230〜250頁
●報告書内容・
1章 棚田の現状
2章 棚田の歴史
3章 棚田の民俗
4章 棚田の石垣
その他 棚田の保全
●感想等・調査は地元住民の協力を得て行われているが、中間報告会などで地元住民の知らなかったことが紹介され、改めて大井谷の棚田の歴史について再認識している。また、従来より1400年前後に開拓されたとされている大井谷の棚田であるが、古文書の分析により1100年頃開拓されたとの記述もあり、棚田の歴史が変更になりそうである。

III 調査期間、予算等

●調査期間…平成13年度から平成15年度までの3年間

●予算…単年度350万円（内国庫補助2分の1、175万円 県費補助4分の1、87万5千円）

平成13年度は第1期8月、第2期10月、第3期12月、（第4期3月予定）の調査を実施しました。その調査内容を少し紹介します。

1期は、星野村の棚田群計23カ所の現地踏査と主な棚田所有者等の聴き取り調査。棚田の耕作状況調査 棚田一枚毎現地確認。水利調査等。

星野村に鹿里という地名があります。条里制の田に起因する地名といわれていますが、標高約400mの高台にあります。果たしてこの地域の水田がそのように古い時代に出来たものか今後の調査に期待を持っています。

2期は、春山、加藤先生の調査が主なものでした。聴き取り調査は古老が主になりますが、なかなかこちらの聴きたいことに答えてもらえずついつい、長時間となりました。

春山先生の調査で使われた土壌浸透性の調査器は日本で一つしかない東大製の器材でした。

3期は、段上先生、石井さんの調査が主なもので特に石垣調査では、法長6、7メートルの最高石積を発見することが出来ました。棚田は地質、地形、気候、等の自然環境を巧みに利用しながら祖先が試行錯誤の中で築いたものであるということが分かりつつあります。今後の調査で、農業、林業を基盤として営まれた山村の生活がどのようなものであったか、興味深く調査を実施したいと願っています。

石川県輪島市

輪島市教育委員会文化財室 室長 砂上 正夫

文化財指定を受けて調査はじまる

石川県輪島市白米町に位置する棚田「千枚田」は、日本海に面して棚田が連なり、その美しい景観は奥能登を代表する稀少な観光資源として観光客に親しまれています。平成13年1月29日に国の名勝に指定され、それに伴い平成13年度からは文化庁・県の補助を受けて千枚田保存管理計画を平成13年・14年度の2ヶ年計画で策定することになりました。輪島市においても千枚田の棚田が昭和45年前後から徐々に耕作者の高齢化、後継不足によって休耕田の増加や農地の荒廃が進み、景観の保存が重要な課題となってきました。

そこで地域住民やボランティアを集い、保存運動への取り組みを行ってきましたが、このような持続的な努力を支援していくためには、保存管理計画を策定し、保存管理に万全を期する必要があります。この調査及び本計画の策定については（財）日本ナショナルトラストにこの事業の調査委託を依頼し、千枚田保存管理計画策定委員会を設置し、委員長に早稲田大学教育学部教授中島峰広先生はじめ東京農業大学教授麻生恵先生ほか、地元の有識経験者10名で構成し、また地域住民の意見等を十分に取り入れ、当計画

福岡県浮羽町

うきはの石垣

四季折々、周囲の山々の自然の移ろいに見事にマッチしながらその彩りを変えていく棚田は、ごく自然な風景として見られ、それを支える石垣に注目する人は殆どいませんでした。

ところが、棚田の石垣が水害などで崩壊した後、コンクリートの擁壁に変わると、はじめて違和感と不自然さに気づきます。そして石垣の存在に改めて気づき、棚田の保全と石垣の保全は一体的なものと考えようになります。そして改めてこの町を見直してみると、山間地だけでなく山麓から平野部を含めて、耕地、道路、屋敷、河川、水路など至るところに石垣

浮羽町教育委員会 教育長 樋口 泰範

があり「この町のくらしや産業は石垣に支えられてきた」ことに気づきます。

ところが、老垣築職人さんが「石垣のことなどみんな忘れとる。石垣は俺たちの時代で終わった。そう思うとった」と語るように、事態は容易ならぬ状況にありました。

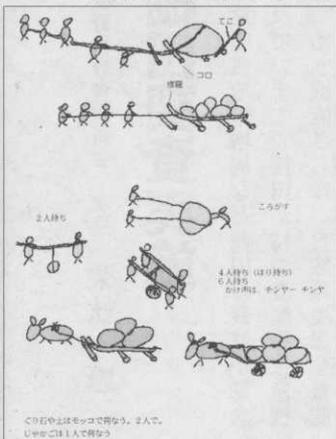
こうしたことから町教育委員会で、「急速な石垣の荒廃と職人の高齢化で、先祖からの大事な遺産も、伝統的技術が危機的にある。早急に調査し保存の在り方を研究しよう」と呼びかけました。平成9年のことです。これに呼応して、石垣職人、土木建築家、農業者、写真家、サラリーマン、郷土史家など多彩なメンバーが30名ほど集まり、「浮羽町石垣保存実行委員会」が結成されました。

2年半をかけ町内の棚田や河川、屋敷などのいろんな石垣の調査をし、これをまとめて、冊子「うきはの石垣」を発行し、各方面から大きな関心が寄せられました。平成12年のことです。

その後町公民館前に典型的な数種類の石垣工法による、石垣見本園を築造しました。最近では地元高校生の総合学習での実習体験と、技術取得を希望する若者を対象に崩壊現場の石垣復旧を現場で行っています。

- 事業名…史跡等保存管理計画策定事業
- 事業の目的…名勝白米の千枚田の文化的価値の保存と管理を適切に行うため、保存管理計画を策定し、名勝の保存を図る。
- 予算の概要…総事業費673万9千円
- 国50% 県25% 市25%
- 平成13年度 405万7千円 現地測量委託費
- 平成14年度 268万2千円 報告書作成費
- 総事業費 635万円 市単独100%
- 平成13年度 350万円 調査委託費
- 平成14年度 285万円 予定
- 事業期間…平成13年4月1日～平成15年3月31日
- 調査主体…輪島市教育委員会

報告書「うきはの石垣」から、昔の工法



佐賀県相知町藤野の棚田調査

●調査主体 佐賀大学農学部集落地理学
研究室

●調査代表 助教 五十嵐 勉

●調査員 大学院農学研究科修士課程

北島郁男・中園輝文

佐賀県北西部八幡岳(763m)北麓に広がる藤野集落には、1/4の急傾斜地に約40ha、1050枚の石積みの棚田が発達し、用・排水用の暗渠が数多くみられるなど九州の棚田百選の中でも特筆される存在である。ここでは、平成13年度から産直方式による棚田米の生産・販売や都市との交流事業を中心に本格的な棚田保全運動が始まった。しかしながら、この棚田の持続的な利用や長期的な保全と管理のためには、棚田、およびその周囲の里山を含めた基礎調査と住民の意識調査が必要である。本研究室では、平成13年度から集落住民と相知町役場の協力を得て、現地調査と土地台帳・地籍図・地籍調査図・航空写真等による棚田一筆毎の石垣の構造、水利システム、及び土地利用等の悉皆調査、そして住民からの聴き取り調査を実施している。また、棚田の統合的管理のための地理情報システム(GIS)の構築のために「藤野の棚田データベース」を作成中である。

作業(結い)によって行われ、明治から昭和初期にかけての耕地整理組合による溜池の築造に伴って発展した。土地台帳や地籍図の分析から、明治22年には既に現在の棚田分布の原型が出来上がっており、棚田は5つの谷にまたがって広がっている。谷毎に延びる棚田は、集落からの通耕距離が長く、要所に作業小屋を設置して労働の軽減をはかっている。通耕距離が長く農道の整備等が遅れがちな場所では、部分的に耕作放棄地が見られるが、全体として石垣の崩壊も少なく農地は良好に守られてきた。棚田の石積みは、そのほとんどが「野面積み」で構築されているが、石積みは傾斜が急になるほど高く積まれ、中には8mに達するものもある。棚田の水利は主に溜池に依存しており、山麓を走る基幹用水路、暗渠や掛け流し・パイプ等で配水され、水番によって管理されている。暗渠は、田の地下に溝を掘り、順々に下の棚田へ水を回していくシステムで、谷を棚田化する際には出水の排水路として大規模な暗渠が築造された。本調査では、コンピュータを用いて棚田を一筆ごとに管理する簡易なシステムを試験的に構築し、棚田地域を多角的に分析した。その結果、高齢の担い手と耕作放棄地や石積みの崩壊箇所などに関連性があることが確認され、耕作放棄地は通耕距離が長く農道の整備が遅れている箇所に顕著であることがわかった。

棚田を活かした里づくり

加美町岩座神地区は、東播磨の最高峰千ヶ峰(1005m)の南麓部にあって、加古川の源流多田川の最上流部に位置する。当地の棚田は標高280~430m、傾斜

ほぼ1/6の東向きないし南向きの斜面上に石垣擁壁で支えられた畦畔によって築かれ、約50年を経たスギ林に囲まれて360余筆が並ぶ。棚田の間には茅葺き民家が点在し、棚田の石垣擁壁面や畦畔天端は茶樹、マンネングサ類、その他四季折々の野の草花が彩りを添え、風情ある里山景観を醸成している。

1996(平成8)年…本地区全21世帯が「岩座神棚田保存会」結成。

1997年…「棚田オーナー制」発足(20組)。

1998年…神戸大農学部生を中心に「棚田ボランティア」を組織し、「岩座神老人会」に協力して棚田石垣にマンネングサ類の栽植。減反対策のために導入したソバから「いさりがみそば」が誕生。農

林水産省主催の「農林水産祭村づくり部門」で受賞。筆者は研究室の学生達とともに棚田の研究を開始。

1999年…用排水路、農道、堰45箇所の新設・改修(棚田整備事業)開始。地区婦人会有志が「わさびグループ」を結成し、「葉ワサビの醤油漬け」発売。老人会婦人会「ソバ穀枕グループ」が播州織を使ったソバ穀枕発売。農林水産省「日本の棚田百選」に設定。兵庫県「景観形成地区」に指定。

2001(平成13)年…棚田版クラインガルテン建設開始(15棟)。フィリピン・ルソン島北部の世界遺産イフガオ棚田の住民代表3名が岩座神を訪れ、棚田保全について連携提案。以上のように、過去5年間に岩座神にとっては未曾有の出来事が起っている。

岩座神棚田研究会は、①棚田と石造物の構造、農道ならびに水利系統に関する調査研究成果を蓄積して棚田保全に資する。②営農体系、作付様式を追跡して棚田の生産機能の向上を図る。③石垣擁壁に生育する希少植物種のバイオ技術による増殖等を目指している。さらに、④棚田・ケラインガルテン両オーナー制、ならびに棚田ボランティアの動向。⑤棚田保全と景観づくりを依拠したアメニティ空間の創造。⑥地域特産物の開発。⑦棚田をめぐる地域・国際交流の展開状況などを追跡調査し、これら地域振興活動に対して指針を与えることを目的としている。

農村環境整備センターが担当した

棚田の調査

(社)農村環境整備センター 主任研究員 重岡 徹

農林水産省では農村振興局(旧構造改善局)において比較的早い時期から棚田調査に取り組んできていましたが、とりわけ中山間地域対策が重点課題となつてくる中で、棚田の保全や棚田地域の活性化に向けて種々の施策が展開されるようになってきています。

また、こうした施策の有効な活用方法や具体的な実践方法を示すために、多数の調査や研究が進められています。この中で特に棚田の多面的機能に着目し、その保全とそれを活用した活性化方策を明らかにすることを目的とした調査があります。これらの調査で(社)農村環境整備センターが担当させていただいたものを紹介させていただきます。

(1)「棚田の文化的価値の保全・活用と農業農村活性化に関する調査」

農林水産省では平成10年度から13年度にかけて文化庁の協力をいただきながら、棚田の魅力の源泉を探るとともに、棚田の発揮している多面的機能を明らかにして、棚田の保全と活性化方策を提案していくことを目的として進められている調査です。中島峰広先生・木村和弘先生をはじめとして棚田にご造詣の深い先生方で「棚田保全専門委員会」を設置し、アンケート調査や現地実態調査を行いながら科学的視点と併せてより実践的な保全・活用方策を検討しています。各年度の調査内容と成果は次の通りです。

①平成10年度「棚田の文化的価値の要素

の検証」

△内容▽

「棚田」及び「棚田の文化的価値」の基本的な考え方を整理した。棚田や中山間に関する既往の調査研究や諸資料を考察するとともに、群馬県・長野県・山口県・宮崎県下でのフィールド調査を実施して、これからの棚田保全や棚田地域活性化に向けての諸施策の基礎的事項の定義化を試みる。

△成果▽

●棚田考察の基本的枠組みを提示した。

(棚田の定義、棚田の特性、分布(風存)状況、棚田農業の特徴)

●棚田の基本3類型を提示した。(展望型・中間型・谷地田型)

●棚田の有する文化を整理した。(農業土木技術・生活習俗・信仰・生態系・国土保全)

●棚田の景観構造を明らかにした。(景観構造・審美性)

●棚田の文化的価値の要素を示した。(畏敬・郷愁・景観美・生物多様性・国土保全・食料生産)

②平成11年度「文化的価値等による棚田の評価手法の開発」

△内容▽

平成10年度調査結果で示された棚田の文化的価値の諸要素を踏まえて「文化的価値の顕著な棚田」の選出方法(評価手法の開発)を検討し、これに基づいて全国の棚田より一定数の棚田を選出する。選出された棚田について基礎的考察を行って棚田における文化的価値の発現形態の類型化を試みる。

△内容▽

●棚田の文化的価値の実態を把握するため基礎調査項目を提示した。(傾斜・面積・耕作放棄地率・法面・水源・開発起源・整備の有無・経営戸数・反収・経営規模)

●「文化的価値の顕著な棚田」を選出するための選定項目を提示した。(景観・国土保全・生態系保全・伝統文化)

●上記の2項目を踏まえて「文化的価値の顕著な棚田」を選定した。(134地区

「日本の棚田百選」)

●134地区についての基礎データを収集し事例集として整理した。

●134地区の基礎データの整理から基本的な傾向を析出した。

③平成12年度「棚田の有する文化的価値を活用した棚田保全手法の検討」

△内容▽

棚田の文化的価値の構成要素を明らかにするために、「日本の棚田百選」認定地区及び「棚田緊急整備事業実施」地区を対象にアンケート調査を実施した。

△内容▽

●棚田の文化的価値として「景観」「保健休養」「民俗文化の伝承」「情操涵養」を定義した。

●「景観」「保健休養」「民俗文化の伝承」について文化的価値の構成要素を明らかにし、その体系化を行なった。

④平成13年度「文化的価値を活かした農業農村の活性化方策の提案」

△内容▽

「景観」「保健休養」「民俗文化の伝承」の文化的価値を効果的に活用して地域活性化に取り組んでいる地域を対象に現地調査を実施し、価値の構成要素、価値の活用内容、価値保全対策の対象等について分析する。その結果をもとに棚田の文化的価値の活用方策をとりまとめる。

(2)平成12年度「棚田地域等の多面的機能を活用した体験活動による地域活性化推進調査」

この調査はライステラス24号で紹介いただいた「棚田地域における活性化の取り組みについて―自然・田んぼ・ふれあい体験活動の実践―」シンポジウムを成果の一つとするもので、農林水産省・環境省・文部科学省が連携して実施した調査です。

棚田地域の多面的機能を活用した体験活動による地域活性化推進方策を明らかにしようとしてきました。この調査では地域活性化を地域社会全体との誇りと自信の回復を目指す運動と捉え、棚田地域においてこの運動を醸成する最も有効な手だてとして体験活動に着目したものです。

調査の内容は、文部科学省が棚田での体験活動と学校教育のリンクのあり方についてのプログラムを、環境省は自然環境の中の環境養育プログラムのあり方を、アンケート調査や事例調査を通して提案しました。また農林水産省では、棚田での体験活動や環境教育の実践に適した環境整備のあり方を提案しました。

以上、農村環境整備センターで担当させていただいた調査について概要を紹介させていただきました。これらの調査結果は報告書としてとりまとめられています。

兵庫県加美町岩座神集落の 棚田キャン・プファイヤー盛り上がる

昨年10月13日、翌日の収穫祭を控えた忙しい折、地元の人にほめるだけ負担をかけないようにしよという事で、オーナー主催のプレ収穫祭―収穫の終わった加美町岩座神棚田でキャン・プファイヤーが行われた。

20歳前後の若者オーナーたちが山から切り出した杉、桧でイゲタを組み、料理好きの中年男性グループが柏汁をつくり、地元区長さんから提供してもらった岩座神産新米を学生オーナーが炊いた。地元およびオーナー計40人が参加し、午後7時、子連れオーナーさんの点火で始まった。加美町産地鶏バーベキューに舌鼓を打ちながら、「こんなに地元の人とゆっくりと話をする機会は今までになかった」と酒を酌み交わして地元の人と話をするオーナー。「岩座神が好きでここがええとこやなあと思っ

その日は結局、草木も眠る丑三つ時までギターをつま弾いて盛り上がったいた参加者もいて、草木も地元の方も眠れなかったのではないだろうか。

一方、マンネン草植栽ボランティアにも取り組んでいる。神戸大学農学部津川教授の協力を得、学生を約30名募集し、岩座神棚田の石垣にマンネン草を植栽し、景観づくりを図ろうとしている。例年は日帰りで行っているこの活動だが、本年度は私の独走で「ホームステイ農村実習」を敢行。10月20日、21日にわたりソバ刈り、マンネン草植栽の作業を学生たちに手伝ってもらった。地元の方にとって、見ず知らずの学生を我が家に泊めるということは、多忙な時期であったということもあるが、抵抗があつたようで、受け入れを簡単には承諾してくれなかったが（喜んで承諾してくれた人もいたが）、「済んでしまえば楽しかった」と言ってくださったのでほっと胸をなで下ろした。学生たちにも受けがよかったようで、ほとんど

福岡県浮羽町 石垣職人が、 高校生に 技術を伝授

平成13年12月24日、寒風のか標高500mのつづら棚田で浮羽町石垣保存実行委員会主催の石垣築き実演会が開催された。町内の石垣職人4名の指導のもと、朝羽高校生17名などが参加して、伝統的な「山石の乱積」という技法で、道路の法面に高さ1・8m、幅15mの石垣を6時間余りで築きました。学生たちは、次に積む石の形や大きさを石垣職人から教わり、重さ10kgほどの石を次々にもちあげながら、作業を繰り返しました。「さまざまな石の形を目で見極めながら、組み合わせるのが難しく、奥が深い」と感心していました。

(浮羽町役場 情報振興課滝内宏治)

続いていくことを切に願いながら、地元住民とオーナーや学生などの第三者が共通認識を醸成し、目標を持って新たな岩座神コミュニティを創造していくという姿勢を育みつつけていくことが、棚田保全に自ずと通ずる道なのではないかと考えている。

(加美町役場 社会開発課産業担当 篠原 愷)

事務局 ニュース

事務局、福岡県浮羽町からのお知らせコーナーです。

理事会からの報告

2月22日、東京で第2回理事会を開催しました。輪島市での棚田（千枚田）サミット報告の後、今年8月30日～9月1日に開催予定の千葉県鴨川市サミットの概要が発表されました。初日Ⅱ総会・特別講演・大山千枚田めぐり・全体交流会等、2日目Ⅱ10テーマに別れた分科会・発表・共同宣言等、3日目Ⅲ市民団体（みんなみの里連絡協議会）による棚田でのイベント、郷土料理教室、棚田音頭等、その他に、関連イベントとして、自然観察会・ウォーキング大会・スタンブリー写真コンテスト等多彩な企画になる予定です。これまで全国棚田サミットが棚田地域活性化のきっかけ作り・情報発信・情報交換をしてきましたので、今回のユニークな企画も楽しみです。理事会では、第10回サミットの開催地として、請願書が出された佐賀県「相知町」を承認しました。また、平成15年度の新副会長に愛知県鳳来町、同じく新理事に宮崎県日南市を承認しました。

雑記帳

2月の西日本新聞で「舞台は棚田―農業新時代・佐賀―」という特集記事が掲載され、佐賀県相知町・西有田町・肥前町・玄海町の棚田を生かした地域おこしが紹介されていました。相知町では、菜の花レストラン・棚田ウォーキング・菜の花種まき、西有田町では、岳信太郎棚田会棚田オーナー募集・とっこ（稲わら）積みフェスティバルでの棚田ウォーキング、肥前町では、棚田歩きと伊万里湾クルージングを楽しむ棚田ウォーク（2回開催）、玄海町は、フォトコンテストとユニークな棚田関連イベントが企画されています。これは、都市住民との交流を通じて棚田米などの農産物の産地直送に活路を開くのが目的です。「農家は味には自信があつたが、それをアピールするきっかけがつかめなかった。町が企画したウォーキングは渡りに船だった」という感想が記されていました。本当に、何かのきっかけを大事にしたいものです、薬をもつかむ精神で！事務局が4月から変わります

事務局が4月から変わります

今年4月から事務局が、福岡県浮羽町 ☎09437・7・2111から、石川県輪島市（漆器観光課）☎0768・23・1146に変わります。

富山県「とやま棚田ネットワーク」の発足を記念して「とやま棚田フォーラム」を開催、只今会員募集中!!



さる平成13年11月29日、富山市のとやま自遊館ホールにおいて「とやま棚田ネットワーク」の発足を記念して「とやま棚田フォーラム」が開催され、3000人を超える参加があり、棚田の保全や活性化についてのさまざまな視点からの討論が行われた。東京農工大学教授の千賀裕太郎氏の「棚田の魅力ー棚田地域の活性化を考える」と題した基調講演の他、活動報告として、八尾町地元代表の「みのり棚田の学校」、県立中央農業高校生の草刈りボランティア「棚田を守り隊」で棚田を守りたい、氷見市長坂棚田オーナーの「棚田のすばらしさ」の3事例の発表があった。さらに公開討論では4人のパネラーによる「とやま棚田ネットワークの設立」をテーマに今後の棚田保全のあり方等について意見が交わされた。高校生の積極的な棚田保全活動に会場からは大きな拍手と感動があつた他、「ネットワーク」への熱のこもった討論などで「フォーラム」は大いに盛り上がった。「とやま棚田ネットワーク」は、県内の各地で取り組みが始まっている棚田保全活動の支援の輪を広げるため、棚田についての情報交換や保全活動を支援するための会員組織として、棚田に関わりの深い方々11名が発起人となり、フォーラム当日に発足した。会長には作家で富山市在住の遠藤和子氏、副会長には富山県立大学教授の広瀬慎一氏が

選任され、活動内容としては、棚田情報の交換（会報誌、交流会等）や棚田の学習（研修会等）を行うこととしている。会費は無料で、会員募集はチラシやホームページ、マスコミ等で幅広く行っており、都市住民や高校生、県外からの申し込みもあり、1ヶ月で200人を突破し大きな反響を呼んでいる。

今後、「とやま棚田ネットワーク」を活用して棚田保全の輪を広げていくこととしている。

会員申し込みや問い合わせはネットワーク事務局の富山県農業公社（電話076-441-7398）まで。

（富山県農林水産部企画管理課 副主幹 山本健次）

お便りテラス

神奈川県葉山町には山あいの各所に棚田又はそのあちががあります。中でも上口地区にある約六十五枚の棚田は葉山三景観の一つとして注目されています。天然の美しさより寧ろ人工の美しさが四季を通して見られ、その棚田を中心として周囲の環境保全へと広がっていることは素晴らしいことと思います。棚田の歴史を知りその保全につとめることが私達に課せられた一つであると感じます。約八十年前に新しく加えられた二枚の棚田が新田（しんでん）と呼ばれて今も旧地名に残されていますが、棚田づくりの御苦労が思い出され、機械力が投入のできない当時殆ど人力で造り上げられた先祖の御苦労を思い、協力して保全に取り組むことが今後重要であることと思います。

景観の美しさもさることながら人づくりの場としての棚田を次の世代へ継げる貴重な財産として取り組むために各層からの知識を切に願っています。

平成十四年一月 大串 定典

静岡県 平成13年度 県による各地の棚田の取り組み(応援)について

静岡県では、棚田のほか、本県の特徴である段々茶園や段々畑、わさび田を含め、平成11年度に「静岡県棚田等十選」を認定し、棚田保全活動を通じた地域づくりに取り組みんできました。また、県下全域でボランティア活動を行う「しずおか棚田くらぶ」を立ち上げ、地区の棚田保全活動を支援する体制を整えました。（現在の会員数は236人、大学生から70歳以上の方まで加入）平成13年度における各地区の活

動については以下のとおりです。

- ▽松崎町石部・伊豆半島の西海岸に位置する同地区では、地元民宿等と連携した活動を模索し、14年度から棚田オーナー制度をスタートすることとなりました。
- ▽芝川町・富士山を仰ぐ同町では、「しほかわ棚田会議」を発足させ、23人の棚田サポーターがトウモロコシやソバの栽培に取り組みました。
- ▽菊川町倉沢・深蒸し茶の産地である同地区では、緑の少年団や県

外企業などが参加し、水田や菖蒲園の保全活動を行いました。昨年、田んぼの学校企画コンテストで金賞を受賞しています。

▽天竜市大栗安・天竜美林で有名な同地区では、熊中学生などが参加し、棚田保全活動や案内看板づくりを行いました。10年ぶりの稲作に地主のおじいさんから大変感謝されました。

県では、今後も地域や市町村、ボランティア、NPO法人等と連

携し、棚田保全運動に取り組み参りますので、ご支援のほど、よろしくお願い致します。なお、これらの活動につきましては、本県のホームページに掲載しておりますので、是非一度ご覧下さい。

<http://www.pref.shizuoka.jp/nou/sei/nrs-27/fanadaHP/index.htm>

（静岡県農地計画室 小林栄人）

情報・BOOKS、お便りテラスコーナーへお便り、ご意見、ご感想、情報をお待ちしています。ライステラス編集部 FAX:03-5389-0078

棚田の保全・中山間地域活性化のための全国組織

全国棚田(千枚田)連絡協議会

お申し込み・お問い合わせは協議会事務局

福岡県浮羽町 情報振興課

〒839-1497 福岡県浮羽郡浮羽町朝田582-1

TEL:09437-7-2111 FAX:09437-7-7820

編集後記

いま、直接支払制度による集落プール金を使って、地域ごとにユニークな活動が行われはじめています。公園をつくろうと集落内を整備したり、「棚田まつり」や棚田米ブランドを立ち上げたり、棚田保全のための会を発足させるなど、地域が夢を抱き、実現に向けて動き出しはじめ、直接支払制度を機に動きが活発化してきました。今後、こうした活動もお伝えしていきたいと思ひます。みなさんからの活動の報告やご意見等お待ちしております。 石井里津子